

2020 2/25

No.2109

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



海水浴場で津波警報などを視覚的に知らせる方策を議論していた気象庁の検討会は13日、赤と白の格子模様の旗を全国統一のデザインとすることを決めた。



contents

視点点描 3
「同じ船」に乗り合わせて

講演録 4
シンポジウム「2020年の動向を読む」
パネリスト

共同通信社 オリンピック・
パラリンピック室長 名取 裕樹
政治部長 松浦 基明
外信部長 近澤 守康
経済部長 高橋 直人

コーディネーター
神奈川新聞社論説主幹 鈴木 達也

国際 9
中国赤十字会の不可解さ
新型肺炎への対応の影で

デモクラシーの現場から 12
安倍首相の不得手

神奈川景気データファイル 14

神奈川景気データファイル 会員コーナー 15

事務局だより

◇2020年3月定例講演会
3月27日(金)午後1時30分～3時

崎陽軒本店4階「ダイナスティ」
講師は(株)ヨロズ代表取締役
会長の志藤昭彦氏
演題は「ヨロズのグローバル
経営」

【おことわり】20日に開催を予
定しておりました富士ゼロツ
クス神奈川様と共催の「第11
回神奈川TOPセミナー」は、
新型コロナウイルスの感染拡
大を受け中止となりました。

【お知らせ】神奈川政経懇話会
ではホームページと会報「政経かな
がわ」に会員コーナーを設け、新
商品の紹介、地域貢献活動、人事
などジャンルを問わずさまざまな
会員情報を掲載しています。掲載
の問い合わせなどは事務局 ☎045
(226) 2121。

視点 点描



「同じ船」に乗り合わせて

新聞の投稿欄を担当し、日々さまざまな原稿に目を通す。「投稿」なので、新聞に掲載されることを前提に書かれているはずなのだ。が、それにしては「危なっかしい」文章が多くて、はらはらする。

自身の行動の非常識さを棚あげて理不尽な扱いを受けたと訴える。入試や年金、各種助成金など現在の仕組みを知らないままに制

度論をぶち上げる。名指しで批判する相手の名前を書き間違えるーなどなど。自らを、それらを事前

にチェックするための担当と割り切って1年余り。最近は何々の文章の内容より、書き手の「姿勢」が気になってきた。一言でいうと「敵・味方に分けたがる」。さらに言えば「敵であれば排除しようとする」。

例えば、カジノを含む統合型リゾート施設（IR）の横浜誘致問題。外国の、成功しているとされている事例を紹介する記事に対して「神奈川新聞はIR誘致に賛成なのか。裏切られたと思った趣旨の投稿が寄せられる。

自分の意にそぐわない意見や情報に対して「そういう考え方もあるのか」と、いったんはのみ込み吟味して、「ここがおかしい」「ここは賛同できない」と分析し、冷静に反論し、議論していくという姿勢が感じられない。そして、味方ではない（が敵でもない）者、

今は敵方であっても説得できそうなのを引きつけようという発想がないことに、「多様な意見交換の場」を目指す投稿欄担当者として不安を感じる。互いに正反対の持論をぶつけ合うだけなら、その議論に実りはない。

排除したがる人たちは、自分た

ちのことしか考えない。ある意味、気楽だと思う。共存が必要と考える人たちは、「敵」さえも包括した社会構築を考える。気が重くなる作業だ。

気の合わない人と無理に一緒にいる必要はない。とはいえ、小さな仲良しサークルなら脱退はあり得るが、社会や国から出て行くわけにはいかない。百歩譲って住む国は選べるとしても、古い表現だが小は「ニッポン丸」から大は「宇宙船・地球号」まで、私たちはいや応なく「同じ船」に乗り合わせている。

その船が安全に航行できるよ、全員が努力する。運命共同体として、互いに理解しないまでも相違を認めて共存する。その認識、覚悟がグローバル社会では必要であるはずだ。

（神奈川新聞社編集委員

青木 幸恵）